



教授の呟き

第37回

安心・安全を満たすロジスティクス

東京海洋大学教授 苦瀬博仁

●●● 時代を表現するキーワード ●●●

戦後からの都市政策の変遷を、おおむね10年ごとに区切って考えるようにしている。

つじつま合わせの面がないわけではないが、「第1期：戦後復興期の需要対応型（1945-65年）」「第2期：大都市集中に対する問題解決型（65-75年）」「第3期：安定成長のための目標設定型（75-85）」「第4期：都市と地方の調和優先型（85-95年）」「第5期：バブル崩壊と地球温暖化などによる環境共生型（95-05）」と考えてきた。

ロジスティクスの世界でも、同じキーワードを当てはめることができるようだ。例えば輸送だけを見ても、第2期は大都市集中に呼応するように路線トラックのネットワークが形作られた。第3期の安定成長期には新たなサービスとして宅配便の急成長が始まり、第4期は調和優先型として共同配送などが取り上げられるようになる。第5期には環境共生のために排出ガス規制や地球温暖化などが話題になった。

21世紀になって5年経ち、2006年を迎えた。今年は、次の10年のキーワードを考える年である。

結論から先に言えば、これからの10年は「安心・安全を求める10年」ではないだろうか。この安心・安全には「環境保全と持続可能性」「生産流通管理とトレーサビリティ」「防災や事故防止」があると考えている。

●●● 持続可能な開発には環境保全を ●●●

UNEP（国連環境計画）での「環境と開発に関する世界委員会（WCED）」によれば、「持続可能な開発」とは「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことがないような形で、現在の世代のニーズも満足させるような開発」と定義されている。現代の利益優先による次世代の不利益を避けることで、世代間の格差を解消する意図もある。

先進国の温室効果ガス排出量について数値目標を設定した京都議定書も発効した。今の安心・安全な生活を将来も継続するためには、環境負荷削減は不可欠となっている。またロジスティクスにかかわる企業にとっても、企業活動と環境負荷のバランスをとらなければ、環境負荷削減に必要な費用が増加するに違いない。

●●● 生産流通管理の差も問題に ●●●

国際化の進展により、さまざまな商品が多く国々から運ばれる時代になって、国境を越えて新たな問題を引き起こすようになった。最近では、牛肉のBSE（牛海綿状脳症、別名狂牛病）問題、鳥インフルエンザ、輸入野菜の農薬問題などが起きている。

生産国と消費国の安全や衛生に対する認識の差に加えて、生産管理や品質管理の方法や精度が異なることに原因がある場合も多い。このよう

な認識の違いや管理方法の差を埋めながら、安心と安全の充実が求められている。

●●● 災害と事故のロジスティクス ●●●

近ごろ頻繁に起きている地震や水害、政治的対立にもとづく爆弾テロや生物化学兵器テロ、情報化社会だからこそ起きるサイバーテロや情報システムの障害は、危険性が増すことはあっても減ることはないだろう。それゆえ災害や事故では「事前の防衛」と「事後の対処」の2つの面から、ロジスティクスの危機管理を検討しておく必要がある。

阪神大震災や中越地震、地下鉄サリン事件などでは、救援や医療のロジスティクスが注目されたが、その教訓は活かされていらないように思う。また個々の企業でも、地震もあれば、サイバーテロ、異物や毒物混入、製品のクレーム、社員の不祥事などによって突発的に非常時のロジスティクスが起こるかもしれない。業態に応じて、幅広い危機管理が必要なはずである。

●●● 安心安全を満たすロジスティクス ●●●

環境保全も生産流通の品質も防災救援のロジスティクスも、結局は安心で安全な生活の維持に結びついている。心理的な側面も含めた「安心」と、計量化が比較的容易な「安全」を、どのように確保していくかが大きな課題である。しかも異常・非常

表 安心安全を満たすロジスティクス

(1) 環境保全と持続性
経済・生活行動と環境の持続性
企業活動と環境負荷とのバランス
現世代と次世代間の格差の解消
(2) 生産流通時の品質管理
国際間の生産管理と流通管理
トレーサビリティ（生産履歴と物流履歴）
生産・品質管理の精度の共通化
(3) 災害と事故に対する危機管理
自然災害（地震、水害、感染症）
政治的紛争（爆弾テロ、生物化学兵器テロ）
情報障害（サイバーテロ、システム障害）
組織内危機（製品クレーム、不祥事）

事態は、明らかに通常時のロジスティクスとは異なる考え方で臨まなければならないはずである。

少なくとも、市場経済にもとづく経済論理だけでは割り切れないだろう（表）。

それゆえ、次の10年は、市場経済の論理を越えて、（1）環境保全と持続性（2）生産流通の品質管理（3）災害と事故に対する危機管理の3つの面から、「安心・安全」を考えていきたいと思っている。

Profile

東京海洋大学 海洋工学部
流通情報工学科 教授
苦瀬博仁

（くせ ひろひと）1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。75年、同大学大学院修士課程修了。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年から東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長を経て、04年4月より評議員。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授（併任）。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」（税務経理協会）、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」（丸善）、「マニラ・エンジョイ・トラブル」（論創社）、「明日の都市交通政策」（成文堂） <http://www.e.kaiyodai.ac.jp/kuse/>

